ごあいさつ

昨年2011年は、東日本大震災や台風12号など大きな災害が日本列島を襲い、日頃忘れかけていた自然の猛威と平穏な生活を営めることがいかに幸運なのかを再認識した年でした。被災した人々の中には障害のある子どもたちも当然ながら含まれており、避難所でのいつもと違う生活は、本人はもとより家族にとっても非常に苦痛だったのではないかと想像されます。そんな中、被災した自閉症の子が避難所にあったピアノを弾き、その音色に避難生活を続ける大人たちが癒されているという報道に接した時は、多少なりとも救われる思いがしました。

今回の災害では、被災された方々の忍耐強さと相互扶助の意識の高さ、さらには国内のみならず海外からの支援の広がりに感動を覚えた方も少なくないと思います。困難な状況の中、精神の豊かさが社会においていかに大切であるかが一層際立ったように感じられました。それとともに、子どもたちの内面的成長に大人はどのようにかかわれば良いのか、特に学校教育が果たすべき役割について改めて考えさせられました。

さて、本校では昨年度までの３年間、子ども自身がもっている自己実現の思いを読み取って主体的な成長を促すには、どのような教育支援のあり方が望ましいのかを模索してきました。これは、児童生徒の表面的な能力の向上だけでなく、彼らの内面的成長を重視した取り組みです。人間の内面的成長の程度は簡単に数値化して示せるものではありませんが、３年間の教育実践を通じて、私たちは確かな手応えを事例対象となった子どもたちから感じることができました。

そこで今年度からは、対象をすべての児童生徒に広げ、自己実現に向けての教育支援を学校全体で取り組むことを目指しました。そのためには、授業をはじめ学校生活全般の見直しが必要となり、学校にとっても大きなチャレンジになります。実践１年目でまだ道半ばではありますが、本研究紀要をご高覧いただき、さまざまな視点からの忌憚のないご意見やご示唆を賜れれば幸いです。

最後になりましたが、本校の教育研究会にご参加いただきました皆様、また、本研究を遂行するにあたり多くのご指導とご助言をいただきました金沢大学の先生方に、心より感謝申し上げます。

2012 年２月　　金沢大学附属特別支援学校長　酒寄淳史